児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：令和5年　11月　1日

事業所名：放課後等デイサービスてとて

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	現状活動内容により机の移動などスペースの有効利用に取り組んでいます。	回答家族24名中17名の回答があり全員はいの回答です。	現状として借家なので改装はできませんがより有効に活用し活動が楽しめる環境改善を行います。
	2	職員の適切な配置	職員の配置はなるべく活動内容や行事等に応じ配置しますが発熱など急な休みがあり充分でない日がありますが概ね対応できています。	わからないとの回答が5名、どちらともいえないの回答が2名ありました。	7月の行政指導により基準人員の改善の指導があり9月より改善しておりますが今後指導されないよう運営していきます。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	木造の一般住宅のため全体を見通すことはできませんが活動室と和室、食堂と同じスペースで回遊できる廊下もあります。階段下など壁に囲まれた場所があり特性に応じた環境になっています。	わからないとの回答が1名、どちらともいえないの回答が1名ありました。	現状の環境設備を生かしながら取り組みの工夫などを行い活動を実施していきます。
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日繰り返しの清掃と環境改善に取り組んでいます。又場面ごとの手洗い消毒の繰り返しにより習慣づけができておりよりよい場所として改善します。	わからないとの回答が1名でした。	概ね満足していただいていると思われるので安全衛生面での習慣の定着と改善を継続していきます。
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）への職員の積極的な参画	日日の引継ぎにおいてヒヤリハットの発言などをもとに改善に努めています。職員会議においてより深く内容を検証し改善の対策を実施しています。		4年目となりますが非常勤職員の定着ができるよう努めながらそれぞれの職員が自主的に動けるよう改善します。
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者による外部評価は実施できていない。		まずは保護者による活動の見学など実施していきたい。
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	外部研修など情報提供を行っており費用負担、勤務扱いなどしている。内部研修は会議の日に実施して参加漏れがないよう努めている。		職員体制が整ってきたのでより積極的に力量にあった研修の参加を促していきたい。
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	支援計画が適正な時期に立てられていないことがあったため改善をしていきます。内容については本人の特性にあった計画を実施できています。	定期的に支援計画を作成いただいています。随時細かく報告や問題解決のための計画、提案をいただいています。 クッキング、外出など子供がやりたいと意欲的に取り組める計画をしていただいていると思います。 公園や公共施設の利用も実施頂いています。 そのような交流機会があるのかわからないが、子供の参加は希望しない。	保護者との連携ができているのでより専門性を持った支援ができるよう取り組みたい。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個別支援計画の作成においては個別活動、集団活動に分けて作成しておらず一人一人の課題を基に作成している。		支援計画の作成を適宜行いそれぞれの課題や良い面を評価し作成している。
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	モニタリングでの要望を基に項目を設定しているが特にコミュニュケーションの課題設定している。		子どもの成長段階に応じモニタリングを基に作成している。
適切な支援の提供（続き）	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	支援計画を確認できるように回覧し会議にて検討確認している。	保護者の要望と支援課題の優先順位など考慮する中で取り組む。	保護者の要望をできるだけ取り入れ支援課題を設定し繰り返しの支援を行う中で改善を取り組んでいく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	定期的な職員会議での提案及び日常の引継ぎにおいて活動についての立案を行っている。	学校での困り事や気を付けたいことを相談させていただいおり一緒に同じ方向で取り組んでいただいたりしています。 クッキングや外出など子供が意欲的に取り組める計画をしてくださっていると思います。	保護者からの要望をできるだけ取り入れながら子供たちの様子を見ていきながら新しい取り組みを行っている。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日の活動は学年により事業所に来る時間の幅があり集団活動の時間が短くなるなど課題があるが休日などはできるだけ時期にあった活動を行っている。		休日の活動についてはなるべく同じ人の片寄りが起きないよう調整しながら取り組んでいる。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	プログラムが固定しないよう新しい取り組みを取り入れながら、継続する取り組みを改善している。		発達段階に応じた支援を全員に行う難しさがあるので経験があるなどの見通しの持てる課題設定を行いながら改善している。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	引継ぎ時に確認を行っている。		外出企画などはレジュメを作成し担当を明確にして会議にかけるなど不明点を解消している。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	振り返りについてはその日に行うことは難しいので次の日の引継ぎ時に確認している。		保護者への連絡帳への詳しい記入や送迎時にその日の様子を口頭で伝えるなどできるだけ行っている。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日々の連絡帳において記録を残しながら保護者からの連絡など共有しながら取組んでいる。		保護者からの連絡は必ず当日の出勤者は目を通すようにし、大切なことは引継ぎ時に再確認を行う。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	現状定期的な実施ができていなかったので今後は改善し実施していく。		定期的に実施できるよう一覧表の確認を都度行う。
	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	サービス担当者会議の呼びかけには必ずふさわしいものが参加できるよう取り組んでいる。		現状サービス担当者会議のコロナ禍の状況があったため、呼びかけがないなど課題があるなど必要と思われる利用者の提案をおこなう。

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	2	**（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）** 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	現状医療的ケアが必要なものはいないが体質的に弱い子がいるので特に配慮を行っている。		インフルエンザなど流行性の病気の予防に努める。
	3	**（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）** 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	主治医との連携はできていないが保護者との連携を密に行い情報の共有を行っている。		保護者との連絡調整を密にとる中で休日の対応など行っている。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校（小学部）等との間での支援内容等の十分な情報共有	学校との連携については送迎時の情報や連絡帳など確認し不明があれば保護者を通じ確認している。		支援内容の共有は難しいが課題の提案など必要に応じ行う。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	現状、移行支援が必要な生徒はいないが就労等の相談に乗る中で情報提供を行っている。		保護者により情報量が少ないなど差があるので必要と思われる情報の提供を行う。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	児童発達センターなどとの連携は実施できていないができるだけ機会があれば研修等に参加していきたい。		近隣にあるルネス花北などの研修があれば積極的に参加していく。
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	近隣の公園では地域の子どもとの交流はあるが計画的なことはできていない。	公園や公共施設の利用も実施頂いています。そのような交流機会があるのかわからないが、子供の参加は希望しない。	今後の中で児童センターや公園など交流機会を積極的に作る。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	現状できていないので今後の課題としていきたい。	バーベキュー企画を行い参加家族には好評であったので継続していきたい。 なるべく多くの参加ができるよう今後も取組みたい。	日々の取り組みの中では対外的な行事を取り組む余裕がないのが現状であるが機会があれば取り組みたい。
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	計画のモニタリングや計画書の説明は丁寧に行っている。	学習面の習得の希望が多くあるため継続的で丁寧な支援を行いたい。	保護者の要望を取り入れているのでさらに専門性を加味した課題など考えたい。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	計画のモニタリングや計画書の説明は丁寧に行っている。	モニタリング時にできるだけ要望を聞き取るようにしている。	計画に落とし込むにあたり保護者の要望、本人の状況を見極めながら課題設定を行っている。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント･トレーニング等の支援の実施	ペアレントとレーニングなど専門的な課題について現在行う力量がないのでまず研修に参加する中で習得して段階を踏んでいきたい。	学習支援など短期に獲得した課題が継続していくことが難しいことなど状況に応じ個別に伝えていく。	保護者の要望と支援課題の優先順位など考慮する中で取り組むが学習などが困難な場合に段階を提案する。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	モニタリング時に聞き取りを行う中で情報の提供や家での様子をうかがうが事業所での様子との違いがあるなど聞くことがある。	学習支援など短期に獲得した課題が継続していくことが難しいことなど状況に応じ個別に伝えていく。	保護者との話で本人の課題、支援に向き合っているが口頭でのやり取りだけでは難しい場合もあり時間をかけながら取り組む。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	適切な対応は十分にできていないがストレスをためないよう聞き取る中で提案をしている。	学校での困り事や気を付けたいことを相談させていただいおり一緒に同じ方向で取り組んでいただいたりしています。	若い職員も多く悩みを聞くまでには至らないまでも困り事への共感から行っている。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	保護者会の開催までは至っていないがバーベキュー企画など楽しむ中で横のつながりの機会を作っていきたい。	保護者会とすると気難しくなるので企画などを考える中で緩やかで和んだ雰囲気の中で交流を考えたい。	企画への家族兄弟の参加の中で違う面を垣間見たり家族との関係性など知る機会になった。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	保護者からの発信がある場合はすぐに対応し解決を行う。難しい場合は職員会議にかけ協議をする中で解決方法を見出していく。	活動時間の短縮を提案しているが返事がない方や希望されない方に再度聞き取りを行い改善の提案をしていく。	苦情を直接伝えることは難しいので送迎時など話しやすい関係性を作る中で聞き取る。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	口頭での伝達が難しい場合や視覚支援と合わせてのスケジュールの伝達や連絡帳でのやり取りを大切にしている。	緊急時の電話や連絡帳での情報交流でなりたっている。	携帯電話での連絡帳を取り組んだが事業者のデータ消去などあり、以前からの連絡帳でのやり取りがわかりやすく双方使いやすいと思う。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	日常的なことやスケジュールなど写真などを活用し情報提供している。	保護者によるが連絡帳の返信をまめにしていただくととても励みになる。	てとて通信を出したが現状時間的な余裕がないため延期している。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報の取り扱いに関する取り決めを取り交わし確認している。		個人情報の取り扱いに関する確認日の記載がないものあり記入している。
	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	BCP委員会を組織し会議をひらいている。	周知ができていないので再度広報する。	緊急時マニュアルをホームページに記載しているが案内の徹底ができていないため再度広報する。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	BCP委員会を組織し会議をひらいている。		防災意識の向上のため防災プラザの見学の実施や防災のビデオを見て公民館への避難訓練を実施している。

区分		チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	虐待防止の研修を定期実施し職員への意識付けを行う。		虐待防止委員会を組織し定期的な研修と会議を行う。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	現状として身体拘束にあたる状況は事例としてはないが車両におけるシートベルトの走行中の取り外しなどがありバックルを外せない装置の取り付けについて保護者と相談している。		前記したシートベルトのバックル提案については了解を得たので支援計画にも記入し必要最低限で取り組む。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	医師の指示書まではできていないが保護者からのアレルギーについての情報を得る中で食品の選択を考慮している。		自身の言語での発信がない方の複数個所の虫刺されなどがあり外出時に気を付けることと、すぐに保護者への連絡を取るなど対応を行う。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	職員会議にて事例を出し合いながら検討調整している。		身体の変化にすぐに気づけるよう普段からの様子を確認しておき、あざや湿疹などたいおうする。